

1 単元名 説得力のある文章を書こう～「意見文を書こう」～

2 単元について

本単元では、指導事項イ「筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること」を重点とし、それを達成するために、総合的な学習の時間（北海道の歴史）や社会科の学習で調査してきた内容について、意見文で考えを伝え合う言語活動を位置付けることとした。本単元で扱う中心教材「説得力のある文章を書こう～意見文を書こう～」では、「読み手を意識した効果的な構成」「考えの広げ方」などが示されており、児童が自分の立場を意識しながら、意見文づくりに取り組むことができるようになっている。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

総合的な学習の時間や社会科の学習で調べたことを意見文で発信する言語活動を通して、文章全体の構成や展開を意識しながら、筋道の通った文章についての考えを明確にして書くこと。

(中心となる指導事項イ 関わる言語活動例ア)

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	言語に関する知識・技能
ア 課題を解決する見通しをもちながら、要点を捉えてメモを取ろうとしている。	ア 文章全体の構成の意図に着目し、立場や考えを明確にしながら書いている。 イ 筋道の通った文章の意図に着目し、立場や考えを明確にしながら書いている。	ア 文章全体の構成は目的に応じて異なることを理解しながら文章を書いている。

4 本単元において育みたい自律性と、働かせる「見方・考え方」

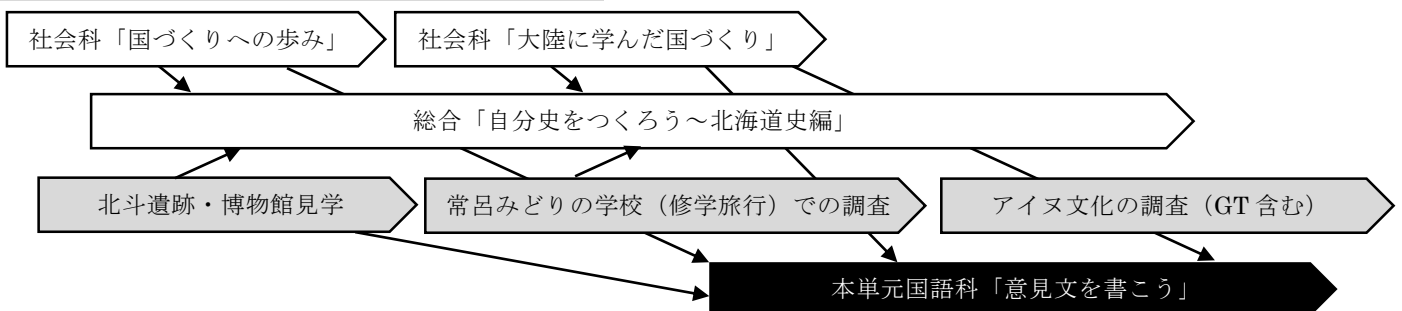
言葉の価値に気付き、社会生活との関わりにおいて獲得した言葉の力を活用する姿

文章全体の構成（頭括・双括・尾括）の意図に着目したり、関係付けたりする

筋道の通った文章全体の構成やその意図に着目する

子供たちは、北海道の歴史の調査を進めていく過程で「アイヌ文化のよさや魅力」について、自分の考えをもっている。本単元の導入では、現時点で子供たちが感じている「アイヌ文化のよさや魅力」を「アイヌ文化が現在の生活から失われている（ようにみえる）事実」の側面から揺さぶり、今までの自分の考えを再度見つめ直す必要性が生まれるようにする。様々な立場の考えが出てきた段階で、「アイヌ文化と現在の自分たちの暮らし」についての考えを、意見文を用いて学年の仲間（相手）と伝え合うこと（目的）を共有する。意見文を作成する過程で「目的や意図に応じ」た表現を具現化していく必要性が生まれ、児童は上記のような「見方・考え方」を働かせていく。

5 学級・学年経営年間プログラムとのかかわり



「北海道の歴史が教科書に載っていない」ことを社会科・総合的な学習における学びの動機付けとし、自分ならではの北海道史（自分史）を創り上げていく過程で、アイヌ文化に着目していくようになった。しかし、図書室の資料や情報機器だけでは歴史的背景を理解していないとわからない内容が多かったり、身近に感じるができなかつたりする情報が多い。そこで、アイヌ文化に関わるゲストティーチャーを招くなど、「アイヌ文化についての理解を深めたり、新たな疑問を生み出したりする場」を位置付け、新たな課題を設定しながら必要感をもって調査活動を進めてきた。以上のような探究的な学びのプロセスを繰り返す、本単元の動機付けを高めることができるようにした。

学 習 活 動

一貫した主体的学びをつなぐ手立て~I

1 自分史づくりのために必要な「アイヌ文化についての情報」のメモをとる。【関ア】

「アイヌ文化のよさや魅力」についての考えをもつことができるようになったね。

でも、こんなよさや魅力があるのに、なぜ現在の生活から失われているの？

確かに、今の生活にでも、考え方は生きて取り入れるのは…。いるのでは？

考えを意見文で伝え合おう！【Before】

本当にこれで仲間に伝わるかな？どうすれば相手に伝わる意見文になるのだろう。

・「アイヌ文化が現在の生活から失われている（ようにみえる）事実」の側面から子供の考えを揺さぶることで、「アイヌ文化と現在の人々の暮らしは、今後どのように関わり合っていくべきか」についての問いをもち、単元の終末で「アイヌ文化のよさや魅力」についての考えを一層深めることができるようにする。

・試しに書いた意見文（Before）を蓄積型のワークシートに示し、単元を通して学びの必要感を生み出したり、自己の変容を自覚したりすることができるようにする。

※相手意識：学年の仲間（中心）＋学習に関わっていただいた方々

アイヌ文化と現在の人々の暮らしの関わりについて意見文で仲間と伝え合おう

2 意見文全体の構成を決める。【書ア】

【個の確立】3種類の文章構成（頭括型・尾括型・双括型）を提示することで、自分が伝えたい事実や意見をより効果的に伝えるための構成について問題意識をもてるようにする。

【見方・考え方を高める】

・教師がそれぞれの構成の共通点や相違点を問うことで、「頭括型は主張したい内容を簡潔に理解してもらった状態で読んでもらえる」「双括型は、頭括型と似ているよさがあるけど、説明が長くなったときに使いそうだな」など、3つの文章の意図について、自分の意見文と関連付けながら思考する子供の姿につなげる。

【個の内面化】

・始めの自分の立場や意見文（Beforeの構成）との比較を促すことで、考えの広がりや深まりを自覚化するなど、本時の学びの価値を振り返る子供の姿につなげる。I

3 意見文に、より説得力をもたせる書き方を決める。【書イ】（本時）

【個の確立】一部が空所になっている文章を提示した後、3種類の文章（A：客観的な事例 B：自分の体験談 C：反対の立場の意見）を提示することにより、子供が伝える内容についての問題意識をもつことができるようにする。

【見方・考え方を高める】

・教師がそれぞれの文章ならではのよさを問うことで、「文章Aを使うと全体の説得力が高まる」「文章Cだと、様々な立場の人が読んだときに納得してもらえるだろう」など、筋道の通った文章の意図を考えていくことができるようにする。

【個の内面化】

・始めの自分の立場や意見文（Beforeの効果）との比較を促すことで、考えの広がりや深まりを自覚化するなど、本時の学びの価値を振り返る子供の姿につなげる。I

意見文の書き方がわかってきたよ。もう一度書いてみよう。

4・5 意見文を書いて、学級の仲間と推敲する。【言ア】

6 完成した意見文を学年で交流する。【関ア】

意見文が完成したよ！【After】

・Beforeの意見文との比較を促し、「特に変わったところ」を問うことで、単元を通しての学びの自覚化を図りながら価値付けをする。

7 本時について (3 / 6 時間目)

(1) 本時の目標

空所に入る3種類の言葉を比較する活動を通して、筋道の通った文章の意図に着目し、「アイヌ文化と人々の暮らし」についての自分の立場や根拠を明確にしながらかいている。

(2) 一貫した主体的学びを「つなぐ」ために (個の内面化)

・始めの自分の立場や文章との比較を促すことで、考えの広がりや深まりを自覚化するなど、本時の学びの価値を振り返る子供の姿につなげる

(3) 本時の展開

学習活動	主な働きかけ・手立て	【評価】 個に応じた指導 (▲)
<p>1 体験活動で収集した情報や事前のアンケートを交流しながら、本時の問題意識を明確にする。</p> <p>アンケート結果を見ると、意見文では「相手に共感してもらえる文章」が大切と考えた人が多いね。</p> <p>でも、それがどのような文章のことかはわからないいな。この3つの文章ならどれが最も相手に共感してもらえるかな？</p> <p>文章Aかな？ 文章Bかな？ 文章Cかな？</p> <p>これをはっきりしたら自分の意見文に生かせそうだね！</p>	<p>【個の確立】</p> <p>□文章の本論部分の一部が空所になっている意見文を提示することにより、基本的な文章構成や内容を考えながら、「自分が書いたら」という視点で、筋道の通った文章についての問題意識をもてるようにする。</p>	
<p>相手に共感してもらえる文章とは何かを考え 自分の意見文に生かせよう</p>		
<p>2 現時点での自分の立場とその根拠を考える</p> <p>・今までに自分たちが書いてきた意見文に近いものがあるよ。</p> <p>・討論会の原稿で書いた文章に近いものもあるね。</p> <p>3 それぞれの立場とその根拠について全体で交流する</p> <p>文章Aで、筆者は客観的な調査(事実)を挙げて、多くの人を納得させる工夫をしているね。</p> <p>文章Bは「体験談」が述べられていて、「あるある！」と読んで読んでくれる。</p> <p>文章Cは反対の立場の考えとその反論が書いてあって、読む人のことを一番考えている。</p> <p>4 3つの構成の意図・効果について交流する</p> <p>文章Aは「客観的な数値」が挙げられているから、説得力が高まるよ。</p> <p>文章Bは「身近な例」を挙げることで、相手に共感してもらえるな。</p> <p>文章Cは「読み手の立場」を理解した上で書いていて、伝えられるよ。</p> <p>どれも共感してもらえる文章に関係していそうだね。「AとC」や「BとC」の組み合わせがよさそう。</p> <p>事例と意見がうまく組み合わせて書くことが大切だよ。</p>	<p>【見方・考え方を働かせる】</p> <p>□立場を問う発問 「自分ならどれを選ぶ？」 「同じ立場？違う立場？」 「その理由は？」 ※まずは「自分にとって」をききかけとする。</p> <p>【見方・考え方を高める】</p> <p>□違いを問う発問 (必要に応じて) 「筆者のねらい・相手に与える効果には、どのような違いがあるの？」 「じゃあ文章Aは読み手の立場を考えていないんだね？」 「文章Bは説得力が低いということ？」 「文章Cでは共感してもらえないということだね？」 ※「筆者は～」「相手にとって～」という他者目線に焦点化していく。</p>	<p>【書イ～ワークシート】</p> <p>▲活動が停滞している児童には、友達の考えを聞いて、考えを整理していくように促す。</p>
<p>意見文作りのカギ② 「事例の使い方」と相手の反論を考えた「意見」のつながりを工夫すると説得力が高まる</p>		
<p>5 意見文 (Before) に朱書きしたり、付箋を貼ったりしながら、学びを振り返る。</p> <p>・前に書いた意見文では、「相手の立場」に全く触れていなかったから、もっと読む人の考えを意識した書き方にする必要があるな。</p> <p>・説得力をもたせるために不足している情報が発見できたから、もう一度調査したいな。</p>	<p>【個の内面化】</p> <p>□始めの立場や意見文 (Before) との比較を促す。① 「書き方で変えたいところはある？」 「なぜ変わった？」 「なぜ、○○の部分は変わらなかった？」</p>	<p>▲変更していく具体的な言葉 (Before 意見文) に着目できていない児童には、板書を参考に視点を整理できるようにする。</p> <p>【書イ～ワークシート】</p>